

# 感染症情報発生動向調査速報

平成24年第18週 平成24年4月30日（月）～平成24年5月6日（日）

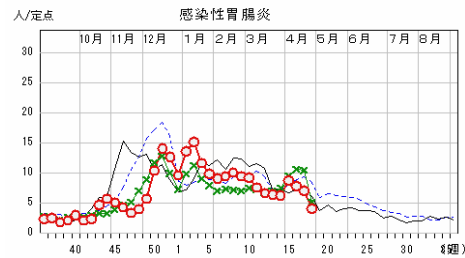
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1） 感染性胃腸炎

第18週の報告数は179人で、前週より132人少なく、定点当たりの人数は4.07であった。

年齢別では、1歳（36人）、2歳（32人）、3歳（20人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（6.40）、長崎市保健所（6.20）、西彼保健所（6.00）が多かった。

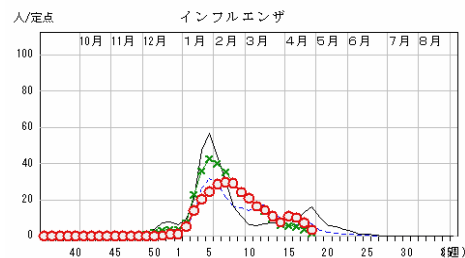


### （2） インフルエンザ

第18週の報告数は232人で、前週より286人少なく、定点当たりの人数は3.31であった。

年齢別では、10～14歳（77人）、15～19歳（31人）、9歳（27人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県北保健所（7.50）、長崎市保健所（4.82）、対馬保健所（4.67）が多かった。

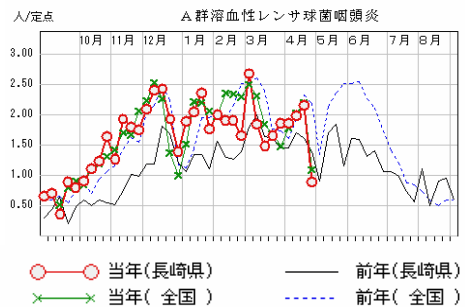


### （3） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第18週の報告数は39人で、前週より56人少なく、定点当たりの人数は.89であった。

年齢別では、6歳（6人）、4歳（5人）、5歳（5人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、長崎市保健所（1.60）、西彼保健所（1.50）、県南保健所（1.00）が多かった。



## ☆トピックス・季節情報

### 【感染性胃腸炎】

長崎県における第18週の報告数は179人で、前週より132人減少して、定点当たりの人数は4.07となり全国定点当たり人数5.23を若干下回りました。対馬地区を除く地域で未だ散発的に報告が出ており、今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

### 【インフルエンザ】

長崎県における第18週の報告数は232人で、前週（518人）より大幅に減少しました。定点当たりの人数（3.31）も前週（7.40）を下回り、全ての地域で注意報レベルの基準値「10」以下となりました。上五島地区を除く地域で報告は出てはいるものの、患者数は減少し、終息に向かっているようです。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。また、体調に異変を感じたらできるだけ速やかに近隣の医療機関を受診しましょう。当疾患に罹患しても抗インフルエンザ薬の普及により欠席日数が少なくなっているようです。解熱してもしばらくはウイルスが排泄されていますので、他の人にうつさないためにも十分な休養をとりましょう。外出、帰宅時にはマスクの着用、うがい、手洗いの励行などによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第18週の報告数は39人で、前週より56人減少し、定点当たりの報告数は0.89でした。報告数の変動が大きく、前年に比べて長崎県下における報告数は増加傾向にあり、18週では、長崎地区が最も報告数が多く、次いで西彼地区の順となっており、注意が必要です。

本感染症の好発年齢は5～15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1～4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1～2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

